


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2023 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	小池 拓矢	会員番号	0033920	
申請者の所属・職名	大阪大学 感染症総合教育研究拠点 生体応答学チーム 特任研究員			
出席会議名	Keystone Symposia: T and B Cell Collaboration in Germinal Centers and Beyond			
発表論文タイトル	Progressive differentiation toward the long-lived plasma cell compartment in the bone marrow			

実施結果:

この度は、2023 年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択頂き誠にありがとうございました。カナダにて実施された Keystone symposia にて、私が筆頭著者として 2023 年 2 月に Journal of Experimental Medicine に掲載された長寿命形質細胞の研究について、ポスター発表を行いました。今回の Keystone symposia は「T and B Cell Collaboration in Germinal Centers and Beyond」と「B Cells and Tertiary Lymphoid Structures: Emerging Targets in Cancer Therapeutics」が合同で行われており、B 細胞の専門家が広く集う場でした。

ポスター発表では、競合的な研究をしている研究者たちと未発表の知見などについてもディスカッションができ、いくつかの実験に関して競合している研究者が予想より先に進んでいることが明らかになりました。このことから、実際に海外で直接会って話すことの重要性を再認識しました。

今回の Keystone symposia では、黒崎知博教授が今回の私のポスター発表の内容と一緒に、私の現在行っている研究も発表してくださいました。これにより、論文の査読者となりうる大御所の先生方に、現在の研究に対する率直な評価もいただくことができました。おおむね好評であり、追加の実験もサジェストいただいたので、次回の論文投稿はスムーズに行くのではないかと考えています。

また、カナダに留学中の先輩である羽生田圭先生と久しぶりに話すことができたことや、黒崎知博先生、伊勢渉先生、鈴木一博先生の留学時の体験などを聞くことができたことにより、留学の必要性を強く感じる事ができました。北米の研究のしやすさや海外のコミュニティに入っていくことの重要性を聞くことができたのは今後の研究人生の大きな資産となりました。

Tadimitsu Kishimoto International Travel Award の助成金はカナダへの交通費として使用させていただきました。このような貴重な機会を与えてくださった、岸本忠三先生、選考委員の先生方、また推薦いただいた伊勢渉先生に、厚く御礼申し上げます。